

平成 27 年度

国際理解教育研究大会報告書

第 23 回岡山県国際理解教育研究大会

岡山大会

「世界の中の日本 学び合う国際理解教育」

～私にもできる国際理解教育～



期日：2016（平成28）年1月28日（木）

会場：岡山ふれあいセンター 小ホール

岡山市中区桑野715-2

主催： 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会
岡山県国際理解教育研究会

後援： 岡山県教育委員会 津山市教育委員会
岡山市教育委員会 倉敷市教育委員会
(財) 福武教育文化振興財団

平成27年度
第23回岡山県国際理解教育研究大会
開催要項

1 日程 平成28年1月28日(木)

13:30 14:00 14:15 15:15 15:30 16:30

受付	開 会 行 事	実践報告①②③	情 報 提 供	講 演	閉 会 行 事
----	------------------	---------	------------------	--------	------------------

2 実践報告

	主題	発表者
実践報告① (海外子女教育)	香港日本人学校での取り組み	山本 純平教諭 (倉敷市立琴浦西小学校)
実践報告② (外国語教育)	学級担任だからこそできる外国語活動	蟻正 倫子教諭 (岡山市立幡多小学校)
実践報告③ (国際理解教育)	国際教育について考えよう ～学校全体での適切な標準化～	高木 恭子教諭 (岡山市立桑田中学校)

3 講演

「世界の中のわたしたち～国際理解と支援のために～」

講師 市場 尚文先生 (アジア教育支援の会)



4 その他 ○情報提供（15：15～15：30）

全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会から、国際理解教育の現状や、海外日本人学校・補習校の様子などをお知らせします。

○展示

日本人学校派遣者が海外から持ち帰った物や写真を展示します。

○日本人学校へのアプローチコーナー

日本人学校に派遣を希望されている方、お気軽にご相談ください。

5 地図



岡山ふれあいセンター

香港日本人学校についてのまとめ

倉敷市立琴浦西小学校 山本純平

国際都市「香港 Hong Kong」

中華人民共和国特別行政区「香港」は、香港島と九龍半島、大小の島々からなる。約 700 万人の人口をもち、2 万 5 千人の日本人が暮らしている。海沿いに立ち並ぶ超高層建築群は色鮮やかなイルミネーションを見せ、ブランドショップや食通をもうならせる大小の飲食店が世界中の観光客を魅了する。

香港はアジアを代表する国際金融都市であるとともに、中国を背景とする物流基地でもある。風俗・習慣は中国文化が根付いているものの、市民の多くは英語を話し、長い歴史の中で西洋と中国が混在した独自性を主張しているようにも見える。街には二階建てのバスやトラム（路面電車）、地下鉄が走り、治安もよく、どこに行くのにもたいへん便利な街である。

現地の教育環境

香港の現地校には授業を英語でおこなう学校と中国語（または広東語）でおこなう学校とがあるが、いずれも「中国語文」が必修で、イギリス式のカリキュラムでも中国語の能力が必要である。

インターナショナルスクールは、アメリカ系、イギリス系、国際バカロレア系など様々あり、現地の学校と同様に香港政府の批准を受けている。インターナショナルスクールには、英語を母語としない子供を受け入れない学校もあれば、ESL（English as Second Language）を設置して積極的に受け入れをおこなう学校もある。

幼児教育については、英語・中国語の現地系の幼稚園や日系の幼稚園が複数あり、子供を受け入れる環境はたいへん恵まれている。

香港日本人学校の教育活動 ～国際的日本人の育成を目指して～

香港日本人学校は、中学部 1 校と小学部 2 校からなり、小学部には香港島を通学区域とする香港校と、主に九龍半島を通学区域とする大埔校がある。大埔校には英語で授業を行う ES（イングリッシュセッション・国際学級）が併設されており、休み時間にはともに遊びやスポーツを楽しむ姿が見られ、合同遠足などの交流も計画的に行っている。小学部は 2 校ともに英語教育に力を入れ、小学 1 年生からネイティブスピーカーによる英会話の授業を行っている。学習した英語の内容を生かして校外で実践する遠足（1 年→香港動植物公園）や買い物（2 年→太子フラワーマーケット）などの行事も計画されている。また、合わせて中学年以上では英語で授業を進める「図工イマージョン」も実施している。大埔校ではユニットを組み合わせた時間割（モジュール）で ES との交流や英会話の授業に特色を持たせている。中学部では週 4 時間の英語の授業に加え、ネイティブスピーカーによる英会話の授業を週に時間取り入れられている。

日本人学校の子供達は学習にたいへん意欲的で、さらに行事にもとても熱心に取り組んでいる。三校ともに山や海など香港の自然を感じられるように工夫された校外学習を行っている。トレイル（山歩き）やドラゴンボート体験、植樹活動など、各校の活動は様々だが、活動を終わるとみんな香港が大好きになる。

また、各校とも現地理解の一環として様々な学校と交流をしている。中学部では香港大学を初め複数の大学と交流し、大学生と共に歴史を探り、食事をとり、文化や将来について語り合う。香港校では 1～3 年生は民生書院と、4・5 年生は聖保羅男女中学附属小学校との交流を行い、それぞれに英語を使っているコミュニケーションを楽しんでいる。大埔校では隣接する現地校と共にお店屋さん、オリエンテーリング、文化交流などを学年ごとに工夫して行っている。

運動会は観戦用スタンドが整備された一般のグラウンドを予約し、盛大に行っている。昔ながらの日本らしい運動会の雰囲気は保護者にも好評。とくに高学年の組体操の演技が始まると、たくさんの香港の人たちが足を止めて日本人の美しい集団行動に目を奪われていた。ぜひ、今後も日本人学校の特色としてこの運動会の雰囲気を引き継いでもらいたい。

現地教育事情等に関する調査・研究報告書

香港日本人学校小学部香港校
教諭 山本 純平〔岡山県〕

1 はじめに



左：聖保羅男女小学
(St. PAURS PRIMARY SCHOOL)

右：民生書院
(MUNSANG COLLEGE)

2 香港における教育制度と教育事情

(1) 英国式の教育制度が採り入れられた香港

香港の公立校では、イギリス式の教育制度が導入されており、6・3・2・2制の13年間となっている。インターナショナル校（以下、インター校）では個別の制度を導入している。

全ての公的教育機関では、毎年9月に新学期が始まり、翌年の6月で学期修了となっている。小中学校は官立と呼ばれる公立の学校のほか、私立校もあり、英語系、中国語系、またはキリスト教系、仏教系など経営母体によって特色が分かれている。

小学校はプライマリースクールと呼ばれ、P1（6歳）からP6（11歳）までの6年間。セカンダリースクールと呼ばれる中学校は、各学年をForm（フォーム）という名称を使い、F1（12歳）からF5（16歳）までの5年間となっている。その後、F6（17歳）とF7（18歳）と呼ばれる大学予科に相当する課程が2年間ある。この大学予科は1年で卒業することもできる。大学予科に進んだ学生は、統一試験を受け、大学に進学する資格を得ることができる。

香港に義務教育制度が導入されたのは1980年代のことで、それまで学校に上がることができたのは一部の裕福な家庭の子女だけだった。現在では日本と同じP1（小学1年）からForm3（中学3年）までの9年間が義務教育となっており、90%以上の青少年が、中等教育やそれに相当する職業訓練を受けている。ただ、大学への進学率は年々上がっているものの、15歳以上の人口のうち、最終学歴が小学校卒業の者が20.4%、高卒（F5卒業）の者が46.2%、大学予科修了が5.3%、大卒者が13.4%（非学位課程修了が7.8%）となっている。〔2003年特区政府資料〕

(2) 新教育制度

教育統籌局の李国章（アーサー・リー）局長は立法会において、教育制度の改定案を発表した。これまでの英国に準じた「3+2+2+3制」から中国に準じた「3+3+4制」へと移行させるというものである。2009年度より新制度が実施された。移行期には、小学5年生が中等中学（初中）3年を修了したら新制の高等中学（高中）へ進み、その3年後に大学入試を受けて4年制大学へ進学することとなる。貿易、金融都市である香港の将来を担う人材の育成を目指したこの改革の趣旨及び必修科目等への影響、また香港において大きな存在感を示す国際学校等にも調査研究を進めたいと考えた。

少数精鋭から多数教育へ李局長は2004年10月20日、公開諮問文書を発表した際に「改革はすべて学生のため」と語った。1978年より香港では中学3年までを義務教育とし、F4（高校1年）進級時に学力測定を行う。だが、その先は狭き門だ。F6（予科1年）への選抜試験で約3分の2がふるい落とされ、F7（予科2年）を修了して大学へ進むことができる学生はそのまた約半数という。

新制度では「ふるい落とす試験」は大学入試の1回のみ。高中3年（日本の高校3年に相当）まで選抜試験は行わない。李局長は「あらゆる学生に中学6年間の教育機会を与えることにより、精鋭を輩出する機会もまた増える」と説明した。いわば「少数精鋭の狭き門」から「多数教育の広き門」を目指す。ごく少数の大卒エリートが香港政庁（当時）に登用された英国統治時代、香港の大学と言えば、1911年に設立された香港大学、63年に設立された香港中文大学の2校だけだった。中国への返還を目前に控え、香港政庁は大学教育の拡充を図った。91年、香港科学技術大学が開校し、94年、ほか3校を大学に昇格させた。この際、中学以降の教育機関を英国と同じ「3+2+2+3制」に統一し、これ

が現在に引き継がれている。中国本土は日本などと同じく「3+3+4制」だ。教育統籌局は改定案を解説した報告書に英ケンブリッジ大学との交渉内容を明記し、「3+3+4制」の導入によって英国の大学を志望する香港人学生が不利にならないよう配慮している様子を強調した。一方で、「3+3+4制」を採る国・地域の大学には香港の高等中学（高校）修了証書が同等の資格と認められるよう働きかけていくと表明した。

香港の教育制度		
年齢	現行制度（3+2+2+3制）	新制度（3+3+4制）
1 2	小学6年	小学6年
1 3	初中1年（F 1）	初中1年（F 1）
1 4	初中2年（F 2）	初中2年（F 2）
1 5	初中3年（F 3）	初中3年（F 3）
1 6	高中1年（F 4）	高中1年（F 4）
1 7	高中2年（F 5）※中學會考	高中2年（F 5）
1 8	高中3年（F 6）	高中3年（F 6）※中学文憑考試
1 9	高中4年（F 7）※高級程度會考	大学1年
2 0	大学1年	大学2年
2 1	大学2年	大学3年
2 2	大学3年	大学4年

※中學會考（HKCEE）：予科進学のための選抜試験
 ※高級程度會考（HKALE）：大学入学試験
 ※中学文憑考試：大学入学試験

（3）小学

公立小学校の約半数は現在、校舎不足のため午前と午後の2部制を採っているが、特区政府は2007年にも全ての小学校を全日制にすることを計画している。

学校によっては、P3（3年生）から精英班（エリートクラス）を設け、優秀な生徒のために授業や宿題などをほかの一般クラスとは違う内容にするなどしてエリート教育を進めている。卒業時にSSPA(The Secondary School Places Allocation System)という試験を設け、進学先の中学校を決める。この時、小学校在学中の試験結果や、校外活動、ボランティアへの参加など各生徒の学内活動についての報告のほか、6年次の12月に実施される「呈分試」という試験の結果も加味され、それをもとに教育と統籌局がレベル別に1～3のバンド（レベル）に学生を分け、受験先の面接があり、それに合格すると晴れて中学生となる。有名中学は人気が高いため、香港では小学生から激しい進学競争が始まっているといえる。

（4）中学

中学は、文法中学と呼ばれる普通校と、工業中学、職業訓練中学の3種類に分かれる。F3（中学3年）を修了すると初中成績評核(The Junior Secondary Education Assessment)と呼ばれる試験があり、F4（高校1年）へ進学するが、F1からF3までの成績に従い教育統籌局から進学できる学校がいくつか提示されるので、その中から志望校のF4へ進学する。F5を修了する際に、香港考試及び評核局(Hong Kong Examination and Assessment Authority)が行うHKCEE(The Hong Kong Certificate of Education Examination, 俗に「會考」と呼ばれる)という統一試験を受け、これに合格すると中学校の教育課程を修了した資格が得られる。

ほとんどの学生はF5の修了後に就職するが、さらに進学を希望する学生は大学予科（F6, F7に進む。しかし、このHKCEEが定めた水準に達しないと進学はかなり難しいため、毎年、この試験の結果に悲観して自殺者が得るほどの社会問題になっている。また、生徒の中にはこの時点で外国の高校入試や大学受験を目指す者もいる。

香港の大学を受験するには、F7（またはF6）修了時にHKALE(The Hong Kong Advanced Level Examination), またはHKHLE(The Hong Kong Higher Level Examination)を受け、その結果によって香港大学や中文大学など香港の大学への進学が許可されるしくみとなっている。

（5）大学

現在、香港には香港大学、中文大学、科学技術大学、理工大学、城市大学、浸会大学、嶺南大学の7

大学があり、最もレベルが高いといわれているのが香港大学と中文大学の2校。イギリス式に3年制(医学部を除く)が採られていたが、2008年に4年制に移行することが検討されている。香港の大学は狭き門となっているため、カナダ、アメリカ、オーストラリアなどの大学に進む学生も多く、最近では中国の北京大学や清華大学などへ進学を希望する学生も増えつつある。少数派だが、台湾の大学に進学する学生もいる。

(6) 母語・英語・北京語の強化

香港ではイギリス植民地であった歴史的背景から英語教育が重視されてきた。小学校1年生から英語の授業が採り入れられ、特に英語系の学校では英語による授業が進められてきた。しかし、1982年に中国とイギリスが香港の返還について交渉を開始して以降、香港人が日常に使用している広東語による母語教育が重視されるようになった。そして、返還から1年後の1998年、それまで英語で授業をしていた中学校400校のうち110校だけに継続して英語教育を行うことを許可し、それ以外の中学校は母語である広東語による授業に切り替えられた。現在は、英語と中国語を書くことができ、英語、広東語のほか、中国の公用語である普通話(北京語)を流暢に話せるという「両文三語」の言語教育制度が推進されている。

しかし、実際には、香港に根強く残る「英語が堪能＝エリート」との社会通念から英語信奉が今なお強く、母語教育を採用した中学校を敬遠する傾向にあるのが現状だ。特に、中産階級家庭では子どもを海外の学校へ入れたり、あるいは香港のインター校へ入れる傾向が比較的強いという。

特区政府は言語教育におけるこうした混乱を防ぎ、国際都市である香港の特性を活かすためにも、教育言語を広東語のみにすることは国際市場での競争力に影響が出ると懸念して、1998年10月、SCOLER(Standing Committee on Language Education and Research)を設立し、言語教育政策を強化し始めている。まず教育者の言語能力の水準を向上させることから取り組み、教師の語学レベルを一定に保つよう教師に対して語学試験を実施するなど言語教育の環境を整備し始めている。

(7) 教育制度改革に伴う影響

2004年10月20日から2005年1月19日までの諮問機関に寄せられた意見書は3300通余り。このほか教育統籌局は説明会や討論会など100回以上開いて各界の意見を聴取した。結果、新制度実施を当初の計画より1年遅らせて2009・2010年度の高1年生(現在の小学5年生)から適用することを決めた。学習目標や入試方法については2005年5月まで引き続き諮問が行われ、改定案では新制高等中学の授業を2566時間以上と定めた。中国語と英語が各338時間、数学と一般教養(自己研鑽、社会常識、環境科学など6単元)が各270時間。この4つは大学進学に必要な必修科目となる。選択科目として物理、歴史、会計、芸術など。また、スポーツや芸術活動、技能訓練も取り入れ、実社会で役立つ人材を育成する。しかし、授業日数は年間157日というのは世界でも最も少ないレベルである。最も多いのは、日本の225日、韓国の220日、中国本土と台湾、シンガポールでは200日となっており、周辺諸国との差は大きい。教育統籌局は改革にかかる予算を67億ドルから79億ドル、経常支出を年間11億ドルから20億ドルに増額修正し、改革に先立って2005年9月からの学費の値上げを発表した。政府のみならず、保護者にかかる負担も増える。この改革は、学年割り・学習内容・試験制度等にも及ぶため、生徒や学生のみならず、教師にも大きな変化を与えることになる。特に、カリキュラムの変更を求められるため、その負担は相当大きなものとなる。教師のストレスを軽減するため、コンサルティングを行う「教師ニコニコホットライン」や「教育労働時間に関する独立委員会」の設置、学校への補助金を2～2.5倍に引き上げた。また、教師の語学力水準を引き上げる措置を延期するなど、そのコストは年間16億5千万ドルに上る。

3 多くの日本人子女の通う日系幼稚園

(1) 概要

香港には777の幼稚園(Kindergarten)があり、約15万人の子供達が通園している。地元の香港人子女向けのローカル系、香港人や外国人を対象とするインターナショナル系のほか、日系の幼稚園も数園あり、日本とほぼ同じ幼児教育を受けることができる。

新学期はローカル系、インター系の幼稚園とも9月から始まるが、日系幼稚園は日本と同じ4月からとなっている。入園年齢は、通常3～5歳児だったが、2000年10月に就園年齢が引き下げられ、

2歳8ヶ月児からの受け入れが可能となった。また、入園資格を9月時点で満3歳とするところと、その年の12月までに満3歳になっていればよいとするところなど、幼稚園によって条件が違うので、申し込む前に確認しておくことが必要である。

特区政府の助成金を受けられる幼稚園は一部に限られている。また、保育料はローカル系、インター系、日系幼稚園で差があり、毎月の保育料がローカル系が1000ドル台からあるのに対して、インター系では高いところで6000ドル以上もする所もあり、幼稚園によって開きがある。

香港の幼稚園は、徒歩で通園できない場合は、幼稚園のバスで送迎するのが一般的となっている。幼稚園が直接運行している通園バスもあるが、多くの幼稚園ではスクールバスを運行するバス会社と契約し、バスマザー（バスに添乗する女性）が搭乗したバスで園児の送り迎えをしている。

(2) 日系幼稚園

香港には日系幼稚園が5つあり、ほとんど日本の幼稚園教諭の免許を持つ先生が文部科学省の幼稚園教育要領に基づいた保育を行っている。中国への香港返還前後は在住日本人も多かったが、現在は微減傾向にあり、入園に関しては落ち着いている。通常、各園とも8・9月頃から入園申し込み書の配布をはじめ、翌年4月に入園となっている。

日系幼稚園のほとんどが、満2歳8ヶ月になった時点で受け入れている。保育時間は、午前9時から午後2時までくらいで、園児は全員弁当持参となっている。ほとんどが通園バスを利用している。日系幼稚園の入園金は6000～10000ドル、その他に制服代がかかる。毎月の保育料については、4000ドル程度はかかる。通園バス代は毎月1000ドル程度必要となる。

日系幼稚園の魅力は、日本人の目から見ると詰め込み式とも思われる香港式教育とは異なり、子供がのびのびと遊び、豊かな感性を育むことを念頭においていることだろう。七夕や餅つき、ひな祭り等、日本の伝統的な行事も積極的に採り入れられているので、これらを通じて香港にいながら日本文化を幼児達が体験できる。

このほか英会話を採り入れるなど、各幼稚園で独自のカリキュラムをそろえているので、申し込む前にカリキュラムを確認し、実際に見学に行くことを勧める。

日系幼稚園	特徴
オイスカ北角幼稚園	少人数の縦割り保育を実施している。専任教員のもと、体育遊び、英語遊びを採用している。1年を通して年長向け英語遊びでの課外保育がある。園外保育もある。2歳8ヶ月から受け入れている。
オイスカ香港日本語幼稚園	1986年に開園された。九龍側にある唯一の日系幼稚園である。独立した園舎・園庭がある。専任教員のもと、体育遊び、英語遊びを採り入れている。園外保育もある。2歳8ヶ月から受け入れている。
コーンヒル日本語幼稚園	独立した園舎・園庭がある。同じ園舎内に中文、インターナショナル幼稚園が併設されている。体操、英語、音楽、文字、数を教える幼児教室などの課外クラスもある。2歳8ヶ月からのプレクラスもある。制服がある。
帝京香港幼稚園	独立した園舎がある。2歳8ヶ月から受け入れる。新体操、絵画、ジム、バレエ、英語の課外教室がある。保育終了後、園児の預かり制度がある。インター・ローカル幼稚園、小学校に通っている子供を対象にした土曜日保育コースがある。
香港たんぽぽ幼稚園	「考える子ども、健康な子ども、くじけない子ども」を理想の子ども像とし、キリスト教保育、豊かな体験保育を実施している。2歳8ヶ月から受け入れている。



4 インターナショナルスクールにおける教育事情

(1) 国際学校の存在

香港には国際学校と呼ばれるインターナショナルスクールが多数ある。英国系、米国系、カナダ系、オーストラリア系、日系などがあり、ESLを設けるなど英語が不得意でも入学できる学校から、ネイティブ並の英語力を要求する難関校まで様々だ。香港はイギリスの植民地であったことから英国系の子女が通う学校として設立されたESF (English School Foundation) は校区に分けて学校を作り、校区ごとに小・中・高校ある。(一部には幼稚園もある。)

香港では高い英語能力を身につけることが成功への道とばかりに、以前からインター校への進学を目指す傾向が強かったが、2000年に導入された母語教育がそれに拍車をかけた。これまで英語で行われていた公立中学の授業を、限られた一部の学校を除き広東語(母語)での授業に切り替えたため、子どもが英語を話せなくなる(将来、出世できない)と考えた香港人保護者達は、前にも増してインター校に殺到し、めぼしいインター校のウェイティングリストはさらにのびることになった。これは現在でも続いている。ほとんどが9月に学年がスタートする。新1年生の入学申し込み受付は、ESFなら1年前からである。中には生後すぐから受け付けている学校もある。入学・編入学には通常、校長などによるインタビュー(面接)があり、ここで必要な英語力が備わっているかどうか、編入学なら学科試験や以前通っていた学校での成績などが確認される。兄弟姉妹がすでに同じ学校に通っている場合や、国籍、Debt(学校債)の有無などによって優先順位が変わる場合もある。いずれにしても、これらをクリアしなければ入学は許可されない。

日本人子女の場合、「せっかく香港に来たのだから子どもをインター校へ」という保護者が目立つが、ここで注意したいのはインター校は「英語を学ぶ学校」ではなく、「英語で勉強する学校」だということである。インター校に入りさえすれば英語が話せるようになる、というのは大きな間違いである。また、おとなしくて内向的な子どもはインター校には不向きであろう。インター校に入学しても、校風に馴染めなかったり、友達や先生との会話が理解できないため問題行動に至ったり、自分の殻に閉じこもったりしてしまい、日本人学校への転校を余儀なくされる場合もある。言語環境の混乱によりセミリンガルになってしまったり、心配の種は尽きない。家庭での学習補助や日本語能力の補強など、様々なバックアップが必要になることも念頭に置く必要があるだろう。

(2) 香港のINTERNATIONAL SCHOOLとEnglish School Foundation (ESF)

- ・AMERICAN SCHOOL (アメリカン・スクール)
- ・BEACON HILL JUNIOR SCHOOL (ビーコンヒル・ジュニア・スクール)
- ・BRADBURY JUNIOR SCHOOL (ブラッドベリー・ジュニア・スクール)
- ・BRAEMAR HILL NURSERY SCHOOL (ブレマーヒル・ナーサリー・スクール)
- ・CHINESE INTERNATIONAL SCHOOL (チャイニーズ・インターナショナル・スクール)
- ・CHRISTIAN ALLIANCE P.C.LAU MEMORIAL INTERNATIONAL COLLEGE (クリスチャン・アリアンス・P.C.ラウ・メモリアル・インターナショナル・スクール)
- ・CLEARWATER BAY SCHOOL (クリアウォーターベイ・スクール)
- ・CONCORDIA INTERNATIONAL SCHOOL (コンコルディア・インターナショナル・スクール)
- ・DELIA SCHOOL OF CANADA (デリア・スクール・オブ・カナダ)
- ・DISCOVERY BAY INTERNATIONAL SCHOOL (ディスカバリーベイ・インターナショナル・スクール)
- ・FRENCH INTERNATIONAL SCHOOL (フレンチ・インターナショナル・スクール)
- ・GERMAN SWISS INTERNATIONAL SCHOOL (ジャ



FRENCH INTERNATIONAL SCHOOL



DELIA SCHOOL OF CANADA

- ーマン・スイス・インターナショナル・スクール)
- ・ GLENEALY JUNIOR SCHOOL (グレネアリ・ジュニア・スクール)
- ・ HONG KONG INTERNATIONAL SCHOOL (香港・インターナショナル・スクール)
- ・ HONG LOK YUEN INTERNATIONAL SCHOOL (ホンロクユエン・インターナショナル・スクール)
- ・ INTERNATIONAL CHRISTIAN SCHOOL (インターナショナル・クリスチャン・スクール)
- ・ HONG KONG JAPANESE SCHOOL PRIMARY SECTION (香港日本人学校小学部香港校)
- ・ HONG KONG JAPANESE SCHOOL JUNIOR SECONDARY SECTION (香港日本人学校中学部)
- ・ JAPANESE INTERNATIONAL SCHOOL PRIMARY SECTION (香港日本人学校小学部大埔校)
- ・ JAPANESE INTERNATIONAL SCHOOL ENGLISH SECTION (香港日本人学校大埔校国際学級)
- ・ KOREAN INTERNATIONAL SCHOOL (韓国国際学校)
- ・ KELLETT SCHOOL ASSOCIATION LTD. (ケレット・スクール・アソシエーション・LTD)
- ・ KENNEDY SCHOOL (ケネディー・スクール)
- ・ KING GORGE V SCHOOL (キング・ジョージ・ファイブ・スクール)
- ・ KOWLOON JUNIOR SCHOOL (カオルン・ジュニア・スクール)
- ・ PEAK SCHOOL (ピーク・スクール)
- ・ QUARRY BAY SCHOOL (クォーリーベイ・スクール)
- ・ ROSARYHILL SCHOOL KINDERGARTEN (ロザリーヒル・スクール・キンダーガーデン)
- ・ SEARROGERS INTERNATIONAL SCHOOL (シアarroジャーズ・インターナショナル・スクール)
- ・ SHATIN COLLEGE (シャータイン・カレッジ)
- ・ SHATIN JUNIOR SCHOOL (シャータイン・ジュニア・スクール)
- ・ SINGAPORE INTERNATIONAL SCHOOL (シンガポール・インターナショナル・スクール)
- ・ SOUTH ISLAND SCHOOL (サウス・アイランド・スクール)
- ・ STARTERS SCHOOL (スターターズ・スクール)



香港日本人学校小学部香港校



香港日本人学校中学部



QUARRY BAY SCHOOL

- ・ WEST ISLAND SCHOOL (ウェスト・アイランド・スクール)
- ・ YEW CHUNG INTERNATIONAL SCHOOL (イウ・チュン・インターナショナル・スクール)



香港日本人学校小学部大埔校



韓国国際学校



CHINESE INTERNATIONAL SCHOOL

5. 終わりに

香港に在住する日本人の保護者にとって、その子女の教育における選択肢はいくつか考えられる。中には子女の幼少期における言語の獲得やそれに伴う生活習慣やアイデンティなどにおいてあまり深く考えず、現地系やインター系の幼稚園やナーサリーなどの選択をする保護者もいる。しかし、小学校段階になると、日本人学校又はインター系に絞って考える保護者がほとんどである。将来、その子女も含めて自分自身の生活の地（勤務先）が海外なのか日本かということに大きく左右されるようだ。また、インター校において、その言語（英語）環境の中でうまくいかずに不適應を起し、悩みに悩んだ末、日本人学校への編入学を決意する例も多い。ほとんどの場合、それまでの学校不適應が信じられないくらいに明るさを取り戻す。将来、日本の学校を受験するにせよ、海外の学校に進学するにせよ、学校を選択する段階である程度の進路計画を立てておくことが大切であるとともに、その子女に対してそれなりの心構えと力を付けておかねばならない。保護者の赴任期間や任地の変更など、様々な事情で子どもの進路が変わっても対応できるようにしておくことが大切であると思われる。

学級担任だからこそできる外国語活動

岡山市立幡多小学校 蟻正 倫子

1 はじめに

現在、2020年の指導要領改訂の動きの中で、外国語活動が注目を浴びている。高学年では、週2時間程度の教科としての英語学習がスタートする。また、3年生から週1時間程度の外国語活動が指導の中に位置づけられる。

今まで、あまり外国語活動とは縁がなかった先生たちも、その多くが、これからは教壇に立ち、求められる資質や能力を身につけさせていかなければならない。中には、「私は英語が苦手だから、専科の先生など、得意な人にしてほしい。」と願う人もいるだろう。

そのような中で、私は、児童とともに一日のほとんどを過ごす学級担任である先生だからこそ、子どもたちに活動の楽しさを教えられるのではないかと考えている。私が、学級担任として目の前の児童と接しながら取り組んだいくつかの実践を紹介しようと思う。

2 学級担任だからこそそのよさ

ここでは、大きく4つ、お伝えしたい。その4つとは、

- ① 他教科との関連
- ② 朝の会での仕掛け
- ③ 教室掲示
- ④ 児童理解

である。それでは、詳しく説明していこう。

(1) 他教科との関連

本校では、総合的な学習の時間の中でキャリア教育に取り組んでいる。自分自身について考え、未来に希望をもって卒業の日を迎えることが、キャリア教育の目標である。さて、その中で、色々な職業の方をお招きして、夢を叶えるまでの努力や、仕事のやり甲斐などを聞く「職業インタビュー」の場を設けた。有り難いことに、12種類もの職業の方が集まってくださった。児童は、自分の興味のある仕事を選び、目を輝かせながら話を聞いていた。

そこで、この職業インタビューに来てくださった方々の職業を英語で言ってみるということから、外国語活動のHi, friends!2 Lesson8 “What do you want to be?”

コミュニケーション能力の素地を養う外国語活動において、コミュニケーション活動は欠かせない。ところが、外国語活動の時間だけで、上手にコミュニケーションを図ることは難しい。日頃からの積み重ねが重要になってくる。そこで、朝の会にペアトークの時間を取り入れ、ペアになって日本語で会話をすることに慣れさせた。

(1人1分)

この時に、少し遊び心を取り入れて、日直がサイコロを振り、1の目が出たら日本語禁止というルールを設けた。このルールは児童に人気で、1の目が出た時には、ジェスチャーや英単語を駆使しながら思いを伝えていた。



《ペアトークのテーマの例》

- (月) 週末の出来事
- (火) 昨日の晩ごはん
- (水) マイブーム
- (木) フリー
- (金) 今週、思ったこと

(3) 教室掲示

児童の目に触れる場所に英語があるように、教室掲示を活用した。今、外国語活動で求められている技能は、「話すこと・聞くこと」である。しかし、目に触れる場所に英語があると、児童は自然に英語を「読む」ようになる。決して強要はしない。あくまで、自然に・・・である。

中学校との接続を考慮して、さりげないところで工夫ができることも、学級担任ならではの。私の場合、用いる英単語は、外国語活動で学習したものから徐々に掲示を始めた。その他、学校生活の中で出てきたものなどを取り入れることもできる。



(4) 児童理解

学級担任でいると、児童同士の間人間関係を把握できる。これは、外国語活動でコミュニケーション活動を行う時に役に立つ。消極的な子がいれば、その子を中心に様子を見ることができし、ペアやグループなども工夫できる。また、外国語活動以外の場面での様子と合わせて、総合的に児童の伸びを見取ることができる。

コミュニケーション活動が欠かせない外国語活動だからこそ、児童同士のコミュニケーションに敏感でサポートしやすい学級担任の存在は大きいのである。

また、児童の実態に応じて、コミュニケーション活動を工夫することも可能となる。

3 終わりに

「学級担任は、英語を学ぶモデルになる」という言葉をよく耳にする。ALTとアイコンタクトをしながらスキットをするモデル。ジェスチャーを使って思いや考えを伝えるモデル。進んで楽しみながら活動に取り組むモデル。児童のことを深く理解し、意思疎通ができている学級担任だからこそ、そのモデルはよい影響を与える。

外国語活動で培ったコミュニケーション能力の素地は、児童の様々な生活場面に生きてくる。グローバル化が進む中で、今、目の前にいる児童が、外国の人たちと肩を並べ、対等にコミュニケーションを図れるように、学級担任として自分に出来ることをしていきたいと思っている。



夏にケープタウンで知り合った仲間たち。国籍は様々。
いつか子どもたちにも、外国の人とのコミュニケーションを楽しんでほしい。

「国際教育について考えよう」

～学校全体での適切な標準化～

岡山市立桑田中学校 高木 恭子

1. 国際教育とは



〈基本的視点〉

「国際社会において地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎を育成するための教育」



国際関係や異文化についての知識や理解の能力だけでなく、※1 自分のもつ文化的背景や考え方を明確に自覚し、※2 相互理解に基づく多文化共生を目指す個や社会を育成する。

※1 対照・比較になるものの存在が重要

※2 良い悪いや上位下位の議論ではなく認め合う相互理解

2. 国際教育を取り巻く現状と課題



[実際の教育活動の現状]

- ・部分的な取り組みがあっても、学校全体の取り組みになっていない傾向がある。
- ・英語活動の実施すなわち国際理解という誤解や単なる体験や交流活動に終始することが多い。

[体制としての課題]

- ・国際教育に関する研修の重要性が十分認識されていない。
- ・必要性や緊急性が乏しいととらえられている。
- ・海外派遣教員の経験や能力を活用するための方針・方策・体制が不足している。
- ・外部の人材や組織に関する情報および学校とそれらを結びつける機能が不在。
- ・外国人児童生徒の増加と多様化に伴う新たな課題への対応が求められる。
- ・海外子女教育の現状に対する理解と変化への対応が必要。



研修等でも、海外生活やボランティアの体験談、外国語教育に関する講演などは取り上げられることがある。それらは有用な情報源や題材となるものであるが、それらが本当に活かされるのは国際教育が体系的な指導理念と指導方法のもとで確立された上であるといえる。日常の教育活動の基盤の中に、国際教育に関わる理念と視点を伴っていなければこういった研修での成果も個人の中にとどまり、実践的な指導案への反映や教材開発、教育活動全体を通じた有機的な取り組みへとつながっていくことは難しい。



そこで、学校における国際教育の機会の充実と教育資源の有効活用を図るためには、担当者だけでなく学校ごとの現状や課題に応じた形で意識的に教育目標や重点目標に盛り込むなど、それぞれの学校で学校全体の方針の中に根付かせ、体系的な推進体制を築いていく必要がある。

3. なぜ今国際教育が重要か



各分野でのグローバル化が進展する中で、地球規模の課題に対する「知識」、「対応」、「交流」、「共存」、「協力」、「解決」等が各国政府および個人にとって求められる社会になっている。それゆえに、**社会のグローバル化と教育は密接な関わり**を持ち、教育政策および各学校の教育活動における国際教育の重要性が高まっている。

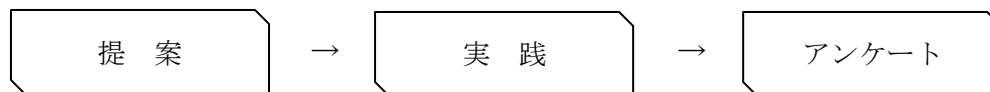


日本は独自の文化的背景を持つ国であり、日常生活において環境的に国際的な刺激が少なく、外国語の習得をふくめ異文化に対する理解や経験の獲得には**意識的な学びの姿勢と教育の力が必要であり、重要である。**

4. 岡山市立桑田中学校における「実践的な国際教育活動の充実と教育効果の拡充を目指した取り組み」の試み

平成26年度、国際理解教育担当者として学校全体での取り組みのスタートのきっかけとして提案し、**日常の各教科等での授業における指導内容の中に意識的に国際教育の視点を取り入れていくこと**を全教員を対象に促し、実践の様子を表にまとめた。

[手順]



[関連資料：別紙参照]

① 推進計画の配布

② アンケート用紙回収

③ 各教科の取り組みの一覧表作成



回答率：3分の1
現状で関心・意識があまり向いていない

回答数 17 / 約50



関心・意識があまり向いていない

↓
数学：「(実践が)なかった」
技家、音楽：回答なし



↓
数学 → (産業・文化)技術・社会・美術等との有機的なつながり
技家 → (産業・文化)数学・社会等との有機的なつながり
音楽 → (文化)社会との有機的なつながり <学びの広がり>

実践案の一例→



‘自分(の教科)には関係ない’ → **「すべての教科・教育活動に必要な視点」という自覚へ。**



<アンケート結果の一覧表に関連付けてできる複合的な取り組み>

- ・ 学習内容に関連する、資料や国際的視野でとりあげた時事的なニュースの共有・提示。
- ・ 各教科の学習内容の流れを知ることによってタイムリーな情報の共有・提示。

←実践案の一例



<今後の活用計画・展望>

アンケートを継続し、この表を年間を通じた国際教育プランとして全教科の内容をまとめたものを共有し、学校全体で継続的に意識し、定着した取り組みにしていく。

⇒ 各教科ごとに関連した内容の題材をどの時期にどの場面で取り組んでいるかが見えることで**教科横断的、応用的な学びの深まりと広がり**を促進、期待することができる。

⇒ 行事や総合的な学習などの取り組み、研修、講演会などの内容を日頃の学習内容と国際教育の視点を持って関連付け、**継続的に意味のある形**にする基盤をつくる。

平成26年度～ ①基盤作り

国際理解教育に対する関心・理解を深め、教育活動の機会の充実と教育効果の拡充を目指して、各教科での授業の取り組み・指導内容の中に国際理解教育に関する視点を意識して取り入れてみる。

平成26年度の提案：

『日々の授業のなかに、「ほかの国や文化ではどうかな？」という視点を取り入れてみる。』

○国際理解教育実践の目的・意義

子どもたちにより広い視野をもって知識・技能等を習得させるよう努めることは、「これからの社会をたくましく生き抜く力をバランスよく育む」という目標のもとに、豊かな人間性を育てることに有用であるとともに、各教科の指導目標の達成や教員自身の知識や教育技能の向上にとっても大きな利点があると考え、積極的な実践を目指したい。

○平成26年度実践の方法

難しく考えることなく、「できる単元（題材）で、できる範囲で、まず+αの一言を」をスタートに、自分のペースで、自分の意向に沿うもので、積極的な授業改善の一つと考えてすすめていければよいと思います。

本年度から始まる『いきいき学校園づくり』の研究の取り組みを妨げず、逆にその実践の中で、うまく話し合い活動のテーマなどに取り上げてみていただいても良いかと思います。

- (実践の例)
- ・ふだんの説明や提示の中に、多文化的な情報を加える。
 - ・文化比較をテーマにした話し合い活動や調べ学習などを行う。
 - ・もし～だったら、などの異なる条件下でどのような違いや変化が考えられるか話し合う。など

○評価

学期または前・後期の節目で、実践の様子と成果・課題等についてのアンケートなどを行い、経験からわかる実情や課題について知り、今後の明確な計画のための資料にしていきたいと思います。ご協力をお願いいたします。

[今後は]

当面は、今回提案程度の無理のない範囲での基盤・意識づくりを継続し、学校の現状や教育目標に応じてより特色ある将来的な計画立案につなげていきたいと思います。

4月の提案「国際理解教育に対する関心・理解を深め、教育活動の機会の充実と教育効果の拡充を目指して、各教科での授業の取り組み・指導内容の中に国際理解教育に関する視点を意識して取り入れてみる。」について、1学期の取り組みの様子を教えてください。

① 担当教科をおしえてください

② 1学期に取り扱った単元・題材の中に、国際理解教育の視点に関わると思うものがありましたか。

- ・ あった
- ・ なかった

内容または単元名等を教えてください。

(自他国の文化に関すること、地球の問題に関すること、ニュース、イベント etc なんでも)

どのような形で指導されましたか(例:調べ学習、話し合い、説明に加えた、等)。また特に工夫された点などがあれば教えてください。

③ 2学期以降、上記の視点に関わって取り扱う予定の単元・題材等があれば教えてください。

今後、各教科の年間の指導計画や実際によく取り扱う題材を参考に、情報提供や共通の学習テーマなどを考えていけたらと思います。

④ その他ご意見、ご提案などがあればお願いします。

大変お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。
よい夏になりますように・・・。

お手数ですが、2年ホワイトボード封筒 or 高木の机上まで、夏休み中くらいによりしくお願いいたします。

5. まとめ・整理

学校教育の目指す内容との関連 〈資料〉

〈初等・中等教育で育成すべき資質・能力〉（中教審報告より）— ①

- ア) 国語を尊重する態度を育て、これを的確に理解し、国語により論理的に思考し、適切に表現する能力を養うこと。また、国際社会に生きる日本人として外国語によるコミュニケーション能力を育てること。
- イ) 我が国の歴史・文化・伝統に対する理解と愛情及び諸外国の文化と歴史に対する理解とこれらを尊重する態度を育てるとともに、郷土や国を愛する心、世界の平和、国際協調に努める心を育てること。
- ウ) 事象を観察し、理解し、論理的・科学的に思考したり、数理的に考察し処理する能力や情報社会において必要な情報活用能力を育てること。
- エ) 家庭生活や社会生活の意義を理解し、家庭、社会及び国家の形成者として主体的・創造的に実践する能力と態度を育てること。
- オ) 芸術を愛好し、芸術に対する豊かな感性を育てること。また、健康な心身と強い精神力を培い、運動に親しむ習慣、健康で安全な生活を生涯にわたって営む態度を育てること。
- カ) 生命を尊重し、他人を思いやる心、自然や美しいものに感動する心や畏敬の念、人を敬う心、正義感、責任感、公德心、人権尊重の精神、ボランティア精神など豊かな人間性を育てること。
- キ) 自己の生き方を主体的に考え進路を選択する態度を育て、勤労を尊ぶ精神を身に付けさせ、さらに進路に応じて職業生活に必要な知識・技能を習得して生涯にわたりその向上に努める態度を育てること。

〈国際教育の推進にあたっての留意点〉（国際教育推進検討会報告より）— ②

- a) 異文化を受容し共生する資質と能力の育成
- b) 自らの国の伝統・文化に根ざした、国際理解の基礎としての自己の確立
- c) 自ら発信し、具体的に行動する資質を備えたコミュニケーション能力の育成



上記①の項目が、「教育内容の厳選と基礎・基本の徹底」の方針にもとづいて**教育活動全体を通して進められるもの**であることを考えると、②の国際教育の推進においても、各留意点に挙げられている資質と能力の育成のためには、**★各教科、道徳、特別活動などのいずれを問わず、学校ごとに全教職員が共通理解をもって取り組むことが重要である**ことがいえる。



具体的方策

学校における国際教育の機会の充実と教育資源の有効活用

- ◎ 学習指導や教材開発の方法等の習得・実践 ← **日常的・継続的・全員実施。**
- ◎ 学校間交流、留学機会の拡充、研修旅行など
- ◎ 海外経験者の活用、人事配置上の工夫など組織的支援体制の構築
- ◎ 外部資源を活用した、学校における国際教育の活性化・多様化


「国際教育について考えよう」
 ～学校全体での適切な標準化～

岡山市立桑田中学校 高木 恭子

海外派遣教員のもつ経験をもっと活かすために

海外での勤務経験から得てきたもの

- 1. 広い視点**
 - 自分が知っていることは一部であるという自覚
 - 活動範囲の拡大 ○許容範囲の拡大
- 2. 開拓精神**
 - 新しい試み
- 3. 協働の力**
 - 多くの人の知恵と経験



① 現地校訪問調査の活用

- 各国の教育制度や学校設備、授業形態や指導方法などに関する調査・研究報告書を作成している。
- 日常の教育課題に対する解決・改善策のヒント。



② 日本のもつ文化的背景の自覚& 相互理解に基づく多文化共生をめざして



日本の伝統文化行事の充実 在日外国人や姉妹校等との交流行事

③ 海外での生活から



自然 日本とのつながり 宗教 食 人・生活・風土 日本人の子どもたち

国際教育を考える
学校全体での適切な標準化

- 体系的な推進体制を築く
- 海外派遣教員やいろいろな人材(校内・校外共に)の経験や知識の活用
- 文化的行事・伝統行事などの経験の充実
- 在日外国人コミュニティや外国施設との交流

『世界の中のわたしたち ～国際理解と支援のために～』

アジア教育支援の会 市場尚文先生

岡山県国際理解教育研究会(2016. 1. 28)

世界の中のわたしたち ～国際理解と支援のために～

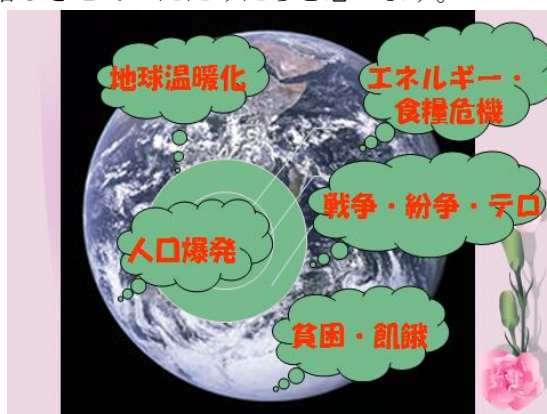
アジアの教育支援の会
代表 市場尚文



アジア教育支援の会代表として、今回の県大会の講師としてお話をいただきました。以下、お話いただいたことをまとめました。

私たちは、これまで「アジア教育支援の会」という団体で、NGOの立場で活動してきました。今回のお話は実践報告という形でお話しさせていただけたらと思います。

あなたは、「世界」「地球」という言葉を聞いてどんなことを考えますか？



地球の写真を子どもたちに見せて、どんなことを感じるのか。実際にイグアスの滝やブラジルのアマゾン川など、実際に自分が訪問した写真やその場の様子を伝えることで、地

球の大きさや丸さを実感できるのではないかと思います。

一日 1.25 ドル (150 円以下) で生活している人は世界 (全人口 70 億人) におよそどれくらいいると思いますか。

問い (2)

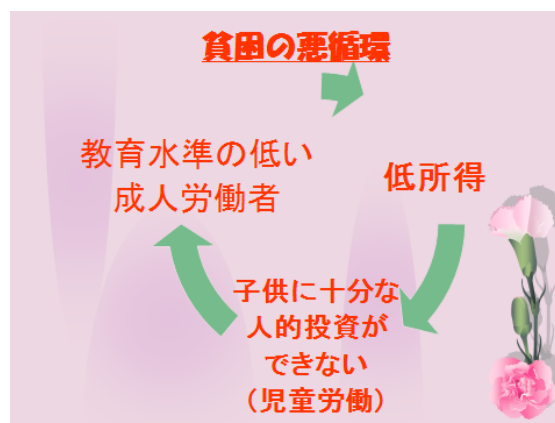
1日1.25ドル (現在約150円くらい) 以下で生活している人は、世界 (全人口約70億人) におよそどれくらいいると思いますか？

- (1) 6億人 (9%)
- (2) 9億人 (13%)
- (3) 12億人 (17%)
- (4) 15億人 (21%)



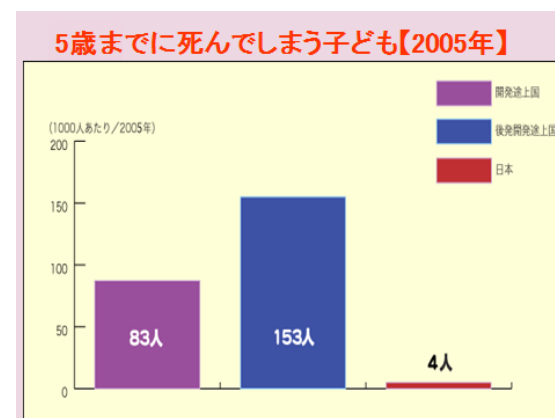
正解は約 1.2 億人です。大変多くの人々が苦しい生活を強いられているのです。昔は 100 円以下で生活していた人を貧困層と言われていましたが、今現在は 1.25 ドルに変わっています。

最近では教育水準の低い成人労働者は所得が低くなり、そうすると子どもたちに十分な投資ができず、中には働かなくてはならない家庭も出てくることになり、そうなれば教育を受けさせることができない家庭も多く出てきます。これが「貧困の悪循環」です。

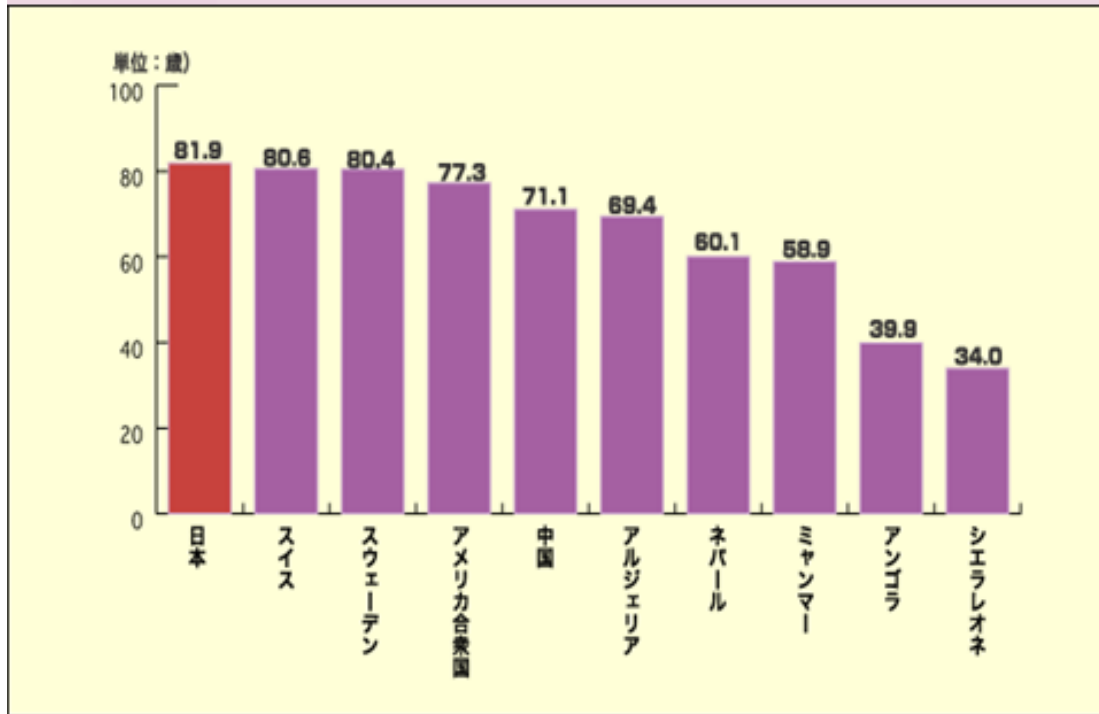


「世界の開発途上国では毎日たくさんの子どもの死んでいきます。どれくらいの時間に 1 人、子どもが死んでいくと思いますか。」正解は 3 秒に 1 人子どもが死んでいるのです。

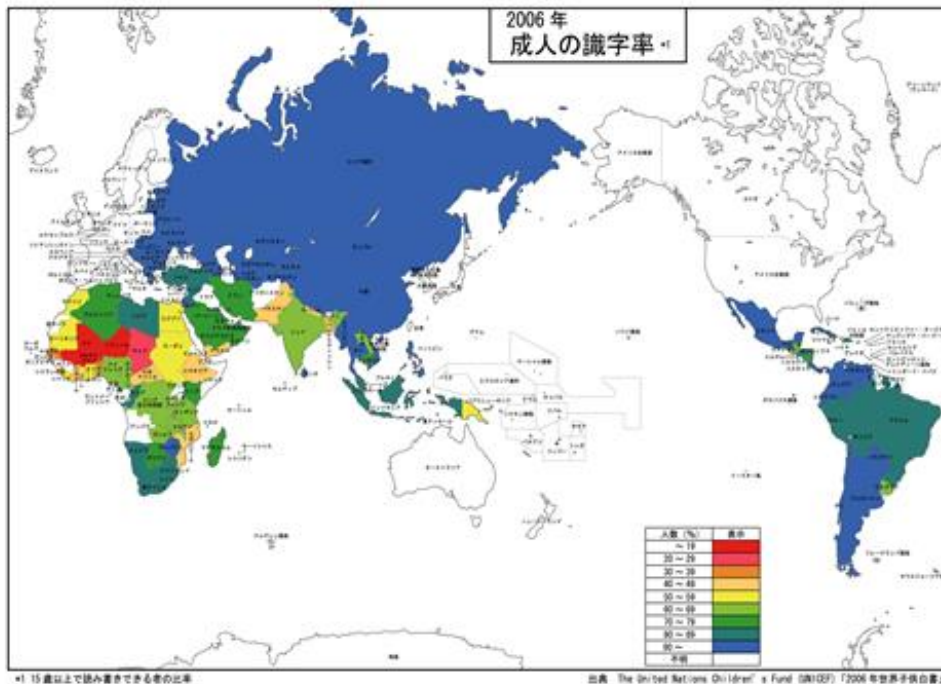
開発途上国では 10人に1人が 5歳の誕生日を迎えることができない



平均寿命【2006年】



日本などの平均寿命です。日本がどれだけ長寿国で、恵まれた生活ができているかがよくわかりますね。



《世界の識字率や就学率についての図を示しながら》

※ODA・NGOについては時間がなかったため割愛

50周年を迎えた日本のODA(1954年～)

日本がこれまでODAを供与したことのある国・地域(2003年実績まで)



注：(1) 日本がODAを供与したことのある国・地域の合計は185か国・地域。
(2) 具体的な国名については第Ⅲ部資料編参照。

ODA(Official Development Assistance)

政府開発援助

政府または政府の実務機関によって開発途上国または国際機関に供与されるもの
開発途上国の経済、社会の発展や福祉の向上に役立つために行う資金・技術提供による協力

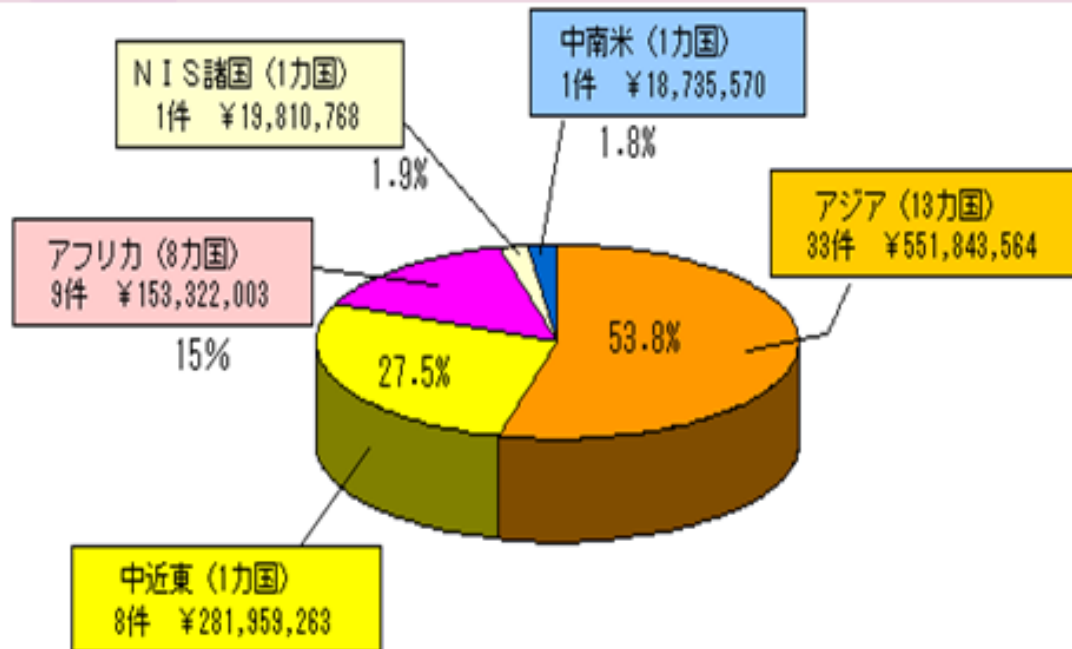
NGO(Non-Governmental Organization)

非政府組織

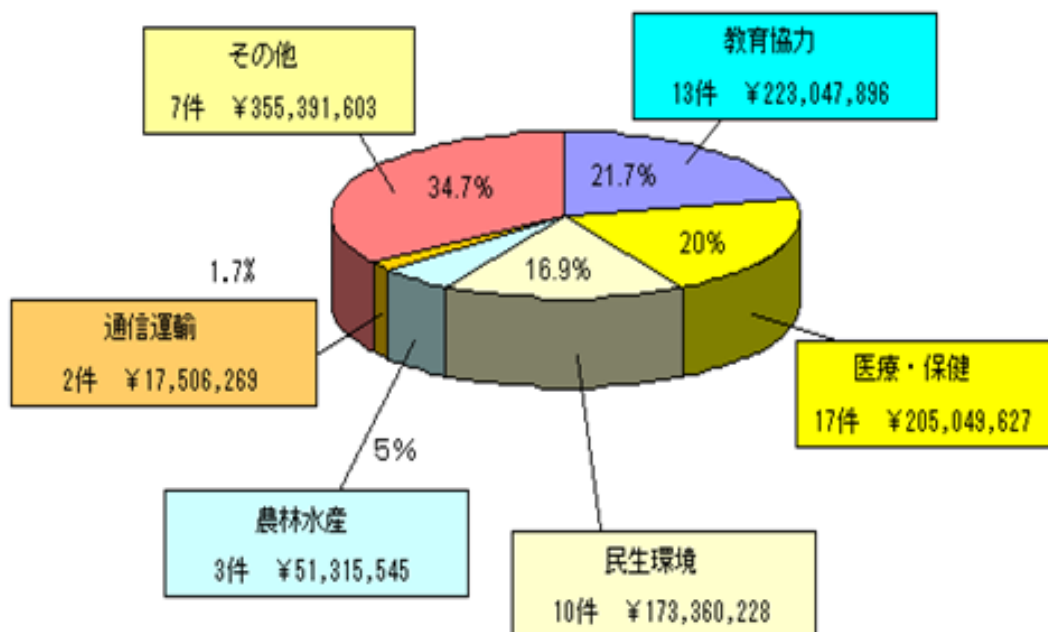
「国際協力に携わる民間組織」
民間人や民間団体の作る機構・組織
国内・国際の両方がある

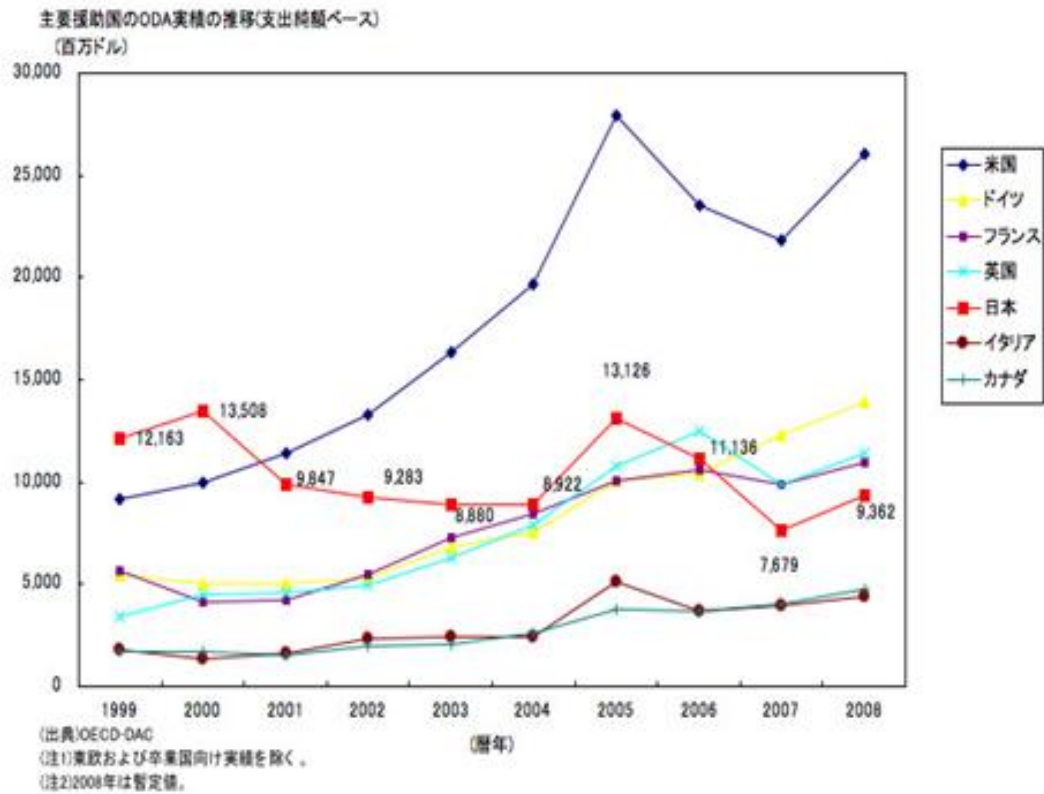


日本NGO支援無償資金協力/国別概要
 (2006年実績 合計52件¥1025671168)

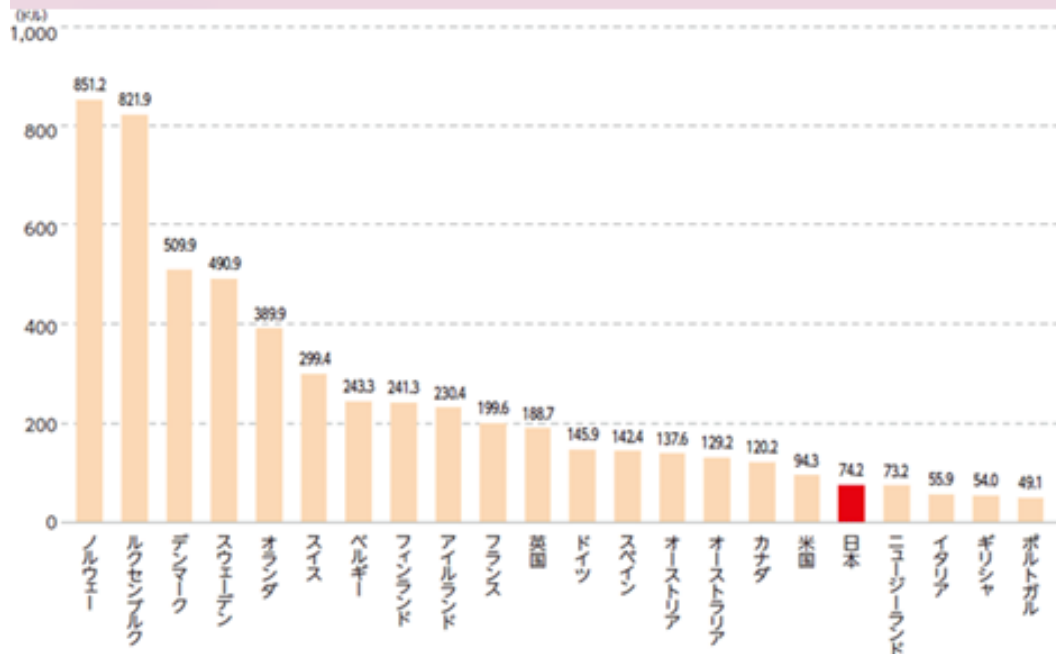


日本NGO支援無償資金協力/対象分野別概要
 (2006年実績 合計52件¥1025671168)





DAC諸国における政府開発援助実績の国民一人あたりの負担額



出典：実績は2009年DACプレスリリース、人口は2008DAC議長報告

*1 東欧および卒業国向け援助を除く。

*2 日本以外は暫定値を使用。

ネパールでは学校へ通うこと自体が子どもたちにとって幸せなのです。また、ネパールでは政府による、障がい者施設での技術習得を目的とした支援を行うことで自立をサポートしている現状があります。



ポカラから見たマチャプチュレ(ネパール)



世界文化遺産スワヤンプナート(カトマンズ)



AEA
(Association of
Educational
Support for
Asia)

アジアの教育支援の会



《アジア教育支援の会の活動についての紹介》



ニルバライ小学校 (カトマンズ)



障害者のための技術習得発達センター (カトマンズ)



図書館建設



カンベショー テクニカル スクール (パタン)

アジア教育支援の会として、ネパールでの障がい者の技術習得支援補助や、図書館建設、学校建設補助などの援助を行っています。また先日起きましたネパール地震にも、復興支援の一助となればと援助金を出しています。一日も早い復興を願うばかりです。

開発途上国では10人に1人が5歳の誕生日を迎えることができていません。世界がかかえる「平和」「食料・エネルギー」「貧困」問題を解決していくことがまずは必要なのだと思います。

《市場先生は最後に2曲、ギターの弾き語りをしてくださいました。》

♪ BELIEVE(ビリーブ)

たとえば君が傷ついて くじけそうになった時は
必ずほぐがそばにいて ささえてあげるよその肩を
世界中の希望をのせて この地球は回ってる
今 未来のとびらをあける時 悲しみや苦しみが
いつの日か 喜びに変わるだろう
アイ ビリーブ イン フューチャー 信じてる

もしもだれかが君のそばで 泣き出しそうになった時は
黙って腕をとりながら 一緒に歩いてくれるよね
世界中のやさしさで この地球をつつみたい
今すなおな気持ちになれるなら あこがれやいとしさが
大空にはじけて光るだろう
アイ ビリーブ イン フューチャー 信じてる

今 未来のとびらをあける時
アイ ビリーブ イン フューチャー 信じてる



♪ 一人の手

一人の小さな手 何もできないけど
それでもみんなの手と手を合わせれば
何かできる 何かできる

一人の小さな目 何も見えないけど
それでもみんなの目と目を合わせれば
何か見える 何か見える

一人の小さな声 何も言えないけど
それでもみんなの声を合わせれば
何か言える 何か言える

一人の人間は とても弱いけれど
それでもみんながみんなが集まれば
強くなれる 強くなれる



《資料》

NEWSLETTER

AEA

Association of Educational Support for Asia

アジアの教育支援の会

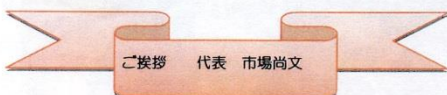
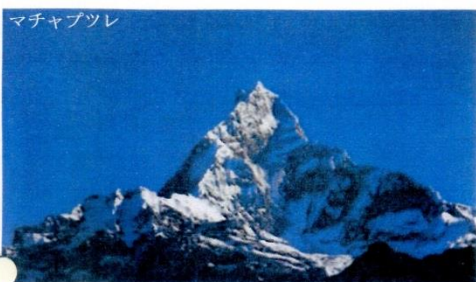
事務局 〒704-8116

岡山市東区西大寺中1-7-12

Tel; 086-943-1166

Fax; 086-280-2180

第18号 2013'2'28' 発行



ご無沙汰していますが、皆様、それぞれに元気にお過ごしのこととお察しいたします。AEAは、1996年の発足以来、国際理解と交流に基づく、アジアの女性の自立、子どもたちの教育・支援の活動を続けてきました。国際交流が盛んになった約20年後の今日でも、それらの活動の意義は大きいと思われま。しかしながら、この間に種々の理由から発足当時の会員が退会することにより会員の減少、活動の中止を招いていることは残念な限りです。それぞれの生活や人生を抱えながらの活動になりますが、できるだけの活動をこれからもしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

2011年3月11日の東日本大震災、その後も続いた自然災害、政治の混乱と経済の停滞、…気分がめいることばかりの昨今です。こんな時こそ個人個人バラバラでなく、集いあい、話し合い、仲間になって立ち向かうことが必要ではないかと思。AEAも思いを同じくする人々が集まれる一つの核であつたらよい、そうなりたいと思っています。

この間、ネパールに関しては、岡山県国際交流協議会によるトヨタ財団の助成を得た女性の自立支援・識字教育を進められておりますし、岡山県・岡

山市とも 連携した日本の公民館活動をモデルにCLC(Community learning center)活動も展開されています。また、今年11月にはスタディツアーを計画しています。一度行かれた方も、初めての方も、ぜひ今のネパールをご覧ください。自然を堪能してください。いろいろな気づきがあると思います。

活動報告 2012年度

- 4月25日 岡山市退職女性教職員会バザー
(ビューリティまきび)
 - 5月24日 岡山県退職女性教職員会バザー
(ビューリティまきび)
 - 6月10日 第1回役員会(きらめきウイズセンター)
 - 7月1日 AEA 総会 (きらめきウイズセンター)
 - 7月14日 第2回役員会(きらめきウイズセンター)
 - 8月5日 夏休み国際理解デー
 - 9月5日 第3回役員会(きらめきウイズセンター)
 - 9月24日 国際パネル展 (市役所ギャラリー)
 - 10月13日 第4回役員会(きらめきウイズセンター)
 - 10月22日 国際理解出前教室(岡山市立芳明小学校)
 - 10月26日 国際理解出前教室(岡山市立馬屋下小学校)
 - 11月7日 国際理解出前教室(備前市立伊里中学校)
 - 11月5日 第4回役員会(きらめきウイズセンター)
 - 11月12日 ノートルダム清心女子大学バザー
(清心女子大学構内)
 - 12月1日 第5回役員会(きらめきウイズセンター)
 - 12月7日 人権週間国際パネル展 (岡山ドーム)
 - 12月12日 キリスト教会バザー(岡山キリスト教会)
- 2013年
- 2月19日 ストリートチャイルド支援コンサート
(西川アイブラザ)
 - 2月22日 西大寺五福座バザー (西大寺五福通り)
(入倉妙子)

国際理解学習教室



市場の賑い

国際理解学習教室を開いてくださった学校

岡山市立芳明小学校（6年生 120名）

（2012年10月22・23日）

岡山市立馬屋下小学校（6年生 22名）

（2012年10月30・31日）

備前市立伊里中学校（1学年42名・2学年49名）

（2012年11月7・8日）

① ネパールの生活・文化・教育の紹介

1990年の民主化により「ネパール憲法」を制定し、王政から民主制に移行。ネパールの気候・風土・（ヒマラヤ山脈等）産業・医療・教育・生活を知ることによって、厳しい自然の中で生活する人達により深い親近感を持たれたようだった。特にネパールの学校と岡山市の学校による姉妹校縁組には大きな感動の声が上がった。（入倉妙子）

② ミャンマーの暮しと生活

1948年イギリスより独立。1988年軍事政権となり、国名をビルマからミャンマーに変更。2012年より民主化が進み人々に新しい活気が見られること等の話に生徒たちは感動していた。また、子どもたちの生活の様子や人々の日常を紹介した。ミャンマーと岡山には同じ仏像があり、平和の交流に役立っていることを知り、これからの日本について話し合った。（藤田繁子）

③ 世界の中の私たち ～国際理解のために～

～国際支援のために～

いずれの学校でも、児童生徒たちが熱心に耳を傾け、活発な意見交換をすることができました。今年度は、初めての中学校の授業になりましたので学年相応にレベルアップした授業を準備しましたが、予想通りにレベルの高い質問も寄せられました。これからの日本、世界を担う若い世代の国際理解を深めるために、来年度も実施したいと思います。（市場尚文）



藤田さんの授業風景

国際協力講座 岡山市立山南公民館

2013年1月19日

入倉妙子、坂本恵美、福島敏子

「国際理解活動」について公民館主催事業として開きたいのでAEAの活動について話して欲しいと言う要請を山南公民館から受けた。そこで、上記3人の会員が公民館に出向き、AEAの説明と料理の実演をした。AEAはここ18年間アジアの中でも特にネパールへの支援と交流を深めているため、「ネパールについて知ろう」を主題として3人はそれぞれネパールを訪問したときの資料をもとに、パワー・ポイントを使い報告した。また、インターネットや書籍から不十分なところは補強したり、最新の統計や情報を提供したりして話を進めた。30分前に参加者全員の共同で作ったネパールのお菓子「セルロッセイ」と紅茶「チャイ」を頂きながら楽しい交流ができたように思う。話の内容はネパールの食文化、子供の教育、識字率、

産業、地理、歴史、衛生面、女性の立場、世界遺産や観光地、ヒマラヤ連峰、エヴェレストなど多岐にわたったが、和やかな2時間はたちまちのうちに過ぎていった。「特に山間僻地の女性たちの生活改善」をめざしているWAKNの活動は具体的に、チャラル・ガネスタン村でその成果を挙げている」との報告に、参加した人はとても熱心に耳を傾けてくれた。食べた手作りの「菓子の甘さ」と「心のあたたか味」の感じられるとても良い会になった。(坂本恵美)

(女性意識開発センター)

ネパール WACN の **今**

2012年11月から2年間の予定でWACNとCOINN(岡山県国際団体協議会)との共同事業でトヨタ財団の助成を受け、プロジェクトが始まった。それはWACNが取り組んでいるチャラル・ガネスタン村のCLC(公民館)に集う人々の生活向上に向けた取り組みである。2012年4月までの調査期間を経て、5月には運営委員会が立ち上げられ、学校関係者、地域の人たち、政府関係者、ユネスコのCLC関係者、COINNのメンバーが集い、計画が承認され、運営の段階に入った。具体的には、地元の運営委員会が中心になって、マイクロクレジットに関する研修、識字教育(地元の中年以上の女性たちは字の読めない人が多い)、健康教育、農業に関する研修等を行っている。識字教育では3つの場所で週に5日間先生が教えている。集まりやすい近くの民家も利用して女性たちが集まって勉強している。

このプロジェクトは2013年10月末に終わるけれども、これで終わってしまうことなく、政府やユネスコの支援も受けて継続することを願っている。

AEAは2012年5月にWACNに10万円の支援。
④チャラル・ガネスタン村:バクタールから南に行った高地の村。標高:1600m~1800m 広さ:16.94平方km 人口:5,196人

ほとんどの人々は農業に従事している。(福島敏子)。



今年のバザー

AEAが今年の1年間に行ったバザーは、例年通り岡山市女性教職員の会、岡山県女性教職員の会、ノートルダム清心女子大学、岡山教会、西川アイブラザ、西大寺五福座に於いてです。

岡山県(市)「退職女性教職員の会」では会員の方が進んで参加してくださり、AEAの歴史を感じた。

ノートルダム清心女子大学では、他のいくつかの団体とともに、大学のカフェテリアで店を開きました。学生さん、卒業生の方々、また渡辺和子元学長様も皆さんと歓談される中で、ネパールのセーター、バングラデシュのノクシカタ等を、AEAを理解して頂きながら、販売することができました。

岡山教会に於いては、今年度は他のバザー販売がなかったので、我々のネパール製品のコーナーのみでした。「いつも頑張っていますね」と教会の方から激励の声を頂戴しました。

今回は、ネパールの手編みセーターを日本人に受ける色調にオーダーをしたせいか、好評のうちに終了することができました。バザーに参加したメンバーも、売りあげが上がると元気が出ます。全て皆さんの御協力のお蔭で成り立っているのだなと思った次第です。これからもよろしく願います。

(佐藤美和子)

東北の心意気に学ぶ

悪夢の「3.11」から2年が近い。被災地東北地方は今なお何万人もの方々が不自由な仮設住宅暮らしを強いられている。復興支援ボランティアをする人達の数は大はばに減ったが、以前のガレキの片づけ、側溝の泥出し等から生活再建、仕事復帰のサポート、仮設等での人的交流の場作り等、多岐に亘っての支援が求められている。小生は2011～2012年にかけて岡山から片道16時間余夜走りして宮城県多賀城市、東松島市、岩手県陸前高田市、大槌町等へ現地2泊3日というパターンで11回東北へ通った。なるべく多くの知人、友人にあの現地をみてほしい一心で一回あたりの滞在は短いとその分、密度高く現地の方の話を聞き、その心意気に共感し、多くを学ばせてもらった。

津波による浸水で田畑の塩害対策に苦勞されている多くの農業者、カキ養殖や漁業関係者はカキ筏の再製作、港、船、加工場の再建、等々田畑や海という「共通項」を基軸に共通の課題に力を合わせるという連帯感、絆。福島の方々は更に放射能汚染との戦い。除染も遅々として進まず風評被害にも苦しむ昨今、私たち西日本の人間はどれだけその悲痛さ、切迫感を我がことと感じているか。元のところに戻りたい、元の仕事をしたい、という素朴な願いが痛いほど伝わった。

東北支援ボランティアをさせてもらって、家とか車とかのモノは失っても、人々はよりよく生きようと再起に向けて汗を流す多くの姿に私は感動しました。やっぱり日本、捨てたもんじゃない！

『ご参考までに：』今からでもボランティアに行ってみよう、現地を見てみたいという方、ご連絡下さい。行き方等お教えします。日程が合えばご一緒しましょう。代表的なボランティアセンターをご紹介します。PC検索なりTELで問い合わせして下さい。

★遠野まごころネット

TEL ; 0198-62-1001



ストリートチャイルド支援コンサート

2013年2月17日 ～西川アイプラザ

岡山市27団体の方々と交流会をして、各団体の紹介や報告があった。AEAは活動の発表とバザーをした。今年はベトナムに支援しました

岡山市主催の「人権週間行事」参加

2012年12月2日 ～岡山ドーム～

人権週間の記念行事として、岡山市国際課主催でアジア各国(タイ・カンボジア・ミャンマー・韓国等)のイベントがありAEAはパネルを掲示しました。



本年の主な支援支出金

東日本大震災	金400,000円
WACN	金100,000円
TSDC	金100,000円 他

岡山県国際理解教育研究会 新しい研究課題の提案

1 新しい研究課題

- I 多文化理解〈・人間理解（人権） ・多文化理解 ・世界の現実理解 〉
- II コミュニケーション〈・コミュニケーション ・外国語教育 〉

2 新しい研究課題設定の背景

(1) 社会からの要請

外務省「海外在留邦人数調査統計」によれば、我が国の領域外に在留している日本人の数は、その増加率が減ってきており、放物線の頂点に近づいている様相をみせているという。

しかし、微増とはいえ、海外在留邦人が110万人を越えている状況は、我が国と諸外国とのつながりが深いという事実が変わりはない。

また、いくつかの企業が社内公用語を英語にすると決定したことが大きなニュースとして取り上げられたり、いわゆる「若者の内向き傾向」がとりざたされていたりもしている。

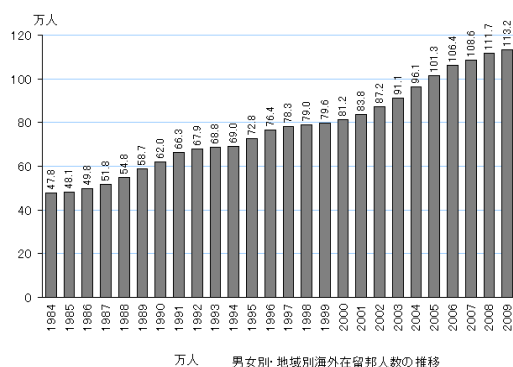
私たちは、すでに「地球規模化=globalization」している国際社会の一員であり、「国際理解教育」なくして我が国の教育は語ることはできないのである。

(2) 新学習指導要領からの要請

中央教育審議会の答申によると、「21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる『知識基盤社会』の時代である」と言われている。「知識基盤社会」の特質として、「①知識には国境がなく、グローバル化が一層進む、②知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる、③知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる、④性別や年齢を問わず参画することが促進される」などとされている。

そのような「知識基盤社会」を生きる子どもたちが自己責任を果たし、他者と切磋琢磨しつつ一定の役割を果たすためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・

海外在留邦人数の推移



万人 男女別・地域別海外在留邦人数の推移

資料 外務省「海外在留邦人数調査統計」

表現力等」が必要であると同時に、世界や我が国社会が「持続可能な発展」を遂げるためには「共存・協力」も必要であるといわれている。

「国境のない知識」「グローバル化」「パラダイムの転換」「共存・協力」などというキーワードは、まさしく「国際理解教育」がめざすものと同一である。

(3) 教育現場からの要請

「生きる力」を培う領域として華々しくデビューした「総合的な学習の時間」であったが、「学校行事・イベントの時間としての扱い」「教師の企画力不足」などと、創設当時の元気はどこに行ってしまったのかという感が否めない。「各教科での知識・技能の習得と総合的な学習の時間の課題解決的な学習や探求学習との間に段階的なつながりが乏しい」との指摘もあり、もう一度「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」という「生きる力」について考え直すことが求められている。「総合的な学習の時間」の一領域として例示された「国際理解」についても例外ではない。

(4) 岡山県国際理解教育研究会の研究の経緯からの要請

本研究会は、今まで研究課題を「人間理解（人権）」「多文化理解」「世界の現実理解」「コミュニケーション」「外国語教育」という5つの研究課題を掲げて実践を積み重ねてきた。

その結果、「人間理解（人権）」「多文化理解」「世界の現実理解」の3つのテーマには、「違いを認めるとともに、同じ人間として共感をもってお互いの人権を尊重しようとする態度を育成する」という共通点があり、「コミュニケーション」「外国語教育」の2つのテーマには、「自分の意見や存在に自信をもつためには、他から共感を得たり、互いの存在を認め合ったりすることが大切である」という共通点があることが明らかになってきた。

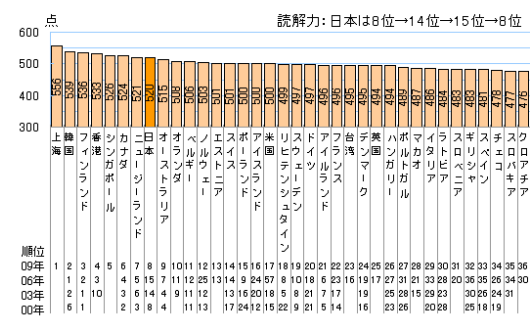
3 新しい研究課題の具体化

前述の背景より、本研究会では、新しい研究課題を「多文化理解」「コミュニケーション」の2つに絞り、新たな実践に取り組んでいくこととした。

各方面からの要請を、実践を通してより確かなものとしていくことが求められている。

「国際理解教育」は、未来を生きぬく子どもたちを育成するために「自己との対話を重ねつつ、他者や社会、自然や環境と共に生きる、『開かれた個』」の育成をめざしてその具体化を図っていく必要に迫られている。

学力の国際比較(2009年)



資料 OECD「生徒の学力到達度調査」2009

各国の紹介・展示コーナーなど

帰国された先生方から、たくさんの資料を提供していただきました。眺めているだけで、その国の文化が見えてくるようです。









あ と が き

寒さ厳しい折、2016年(平成28年)1月28日(木)岡山ふれあいセンターで第23回岡山県国際理解教育研究大会が開催されました。当日、他の出張関係と重なりが多く、参加者が30数名となりました。例年より少なく、寂しいながらも、熱心な討議が続く中身の濃い研究大会となりました。

今回の研究大会は、備前支部の担当で、授業公開を伴わない午後日程の開催で行われました。開会行事の後、3人の先生による実践報告が行われました。

倉敷市立琴平西小学校の山本純平先生は「香港日本人学校での取り組み」をテーマに、香港の教育事情や道徳の教材開発を詳しく発表していただき、岡山市立幡多小学校の蟻正先生は「学級担任だからこそできる外国語活動」をテーマにコミュニケーション活動時の支援やキャリア教育との関連を発表していただき、岡山市立桑田中学校の高木恭子先生は「国際理解について考えよう」をテーマに学校全体で取り組むための体制づくりや国際理解教育の視点を取り入れた授業の研究を発表していただきました。3人それぞれが国際理解教育に多方面から迫るすばらしい実践でした。

その後に「世界の中のわたしたち～国際理解と支援のために～」をテーマにアジア教育支援の会の市場尚文先生に講演をしていただきました。クイズ的な内容あり、ギターによる弾き語りありで、わかりやすく豊かな時間でした。支援の必要性、支援の大切さなどを、さまざまな数字をベースに、じっくり考えることができました。JICAの関係の説明、兵庫教育大教職員大学の説明もあり短い時間であり、少人数でしたが充実した研究大会となりました。

国立教育政策研究所が提言する「21世紀型能力」では、社会や経済等のグローバル化が進む時代を生きる子どもたちに、人間を全体的に捉える思考力や、道徳性などを関連づける力を育む必要性が謳われています。そこでは言語のみならず、文化や慣習、生活環境の違う異質な他者と向き合う身体性の涵養が求められていると考えます。また、知識基盤社会に生きる子どもに、生きる力を身に付けさせ、世界や我が国社会が「持続可能な発展」を遂げるためには、「共存・協力」も必要です。まさしく本研究大会が目指すものと同じです。

また、アメリカのデューク大学の研究者であるキャシー・デビットソン氏による「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもの65%は、大学卒業時に今は存在しない職業に就くだろう。」という未来予測が話題に上りました。日本においても同様に道を進むことが予想されます。

この変化が激しく厳しい挑戦の時代を乗り越え、未来を生きぬく日本人を育成するために、今後も研究課題を具体化していくよう前進していく必要があると思います。目の前の業務で忙しい日々ではありますが、会員の皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本研究大会を開催するにあたり、ご後援頂きました岡山県教育委員会、倉敷市教育委員会、岡山市教育委員会をはじめ多くの関係機関の皆様、忙しい中発表して下さった3人の先生、市場先生、準備・運営の本会役員の先生、事務局の先生、参加して下さった全ての先生に心から感謝とお礼を申し上げます。

平成28年2月27日

岡山市立財田小学校長 服部 誠 (備前支部長)

第23回	岡山県国際理解教育研究大会報告書
発行	2016(H28)年 6月 3日
発行責任者	岡山県国際理解教育研究会
	会長 薄 茂樹
事務局	岡山市立三勲小学校
	〒703-8291 岡山市中区徳吉町一丁目1-21
	(TEL) 086-272-3141 (FAX) 086-271-1239